

当初予算の審議を通じて 将来の津山市を問う!

問 令和5年度予算案に込めた思いをいかに実現し、市民に届けていくのか

【答】 コロナ禍によって加速した新たな生活様式や社会経済の変革、急激に進展する少子化などへの対応が急務になっている現状において、スマートシティ構想やまちじゅう博物館構想といった未来の津山を切り開くビジョンを示すとともに、足下では人口構造の若返りを図るため、子育て環境の充実をさらに進めていく。



問 令和5年度の津山市の教育は

【答】 令和5年度は第3期教育振興基本計画も2年目となることから、本市が目指す「自立」「つながり」「郷土愛」の3つの人間像をさらに追求していく。そのために令和5年度は学校長との対話をさらに進めながら本市の喫緊の課題である「読解力の育成」と「多様な学びの保障」、「郷土愛の醸成」を重点課題とし具体的な取組を推進していく。



問 行財政改革の取組は

【答】 これまでにも、既成概念にとらわれず、民間提案制度(*1)やコンセッション方式(*2)などの手法により、低未利用公共施設等の有効活用を図ることで施設運営費や維持管理費の削減などに積極的に取り組んできた。

今後こうした取組の継続とともに歳入増への取組にも注力し、引き続き財政基盤の安定化に向け行財政改革に取り組んでいく。



*1民間提案制度…民間事業者により市が保有する土地・公共施設に関する提案を求め、公共施設マネジメントに貢献する提案を選定し、採用された提案者との協議を経て事業化を図るもの。

*2コンセッション方式…公共施設の所有権を津山市が有したまま、施設の運営権を民間事業者へ設定する方式。民間事業者による安定的で自由度の高い運営を可能とすることにより、利用者ニーズを反映した質の高いサービスの提供が期待できる。



令和5年度当初予算を可決 津山市のお金、どう使う?



予算総額

859億6,500万円

前年度から約8億8,900万円増えました
※前年度は6月補正(肉付け)予算後の額

一般会計

481億5,000万円

前年度から約2億5,800万円減りました

特別会計

236億1,500万円

前年度から約14億3,100万円増えました

財産区会計

3,100万円

前年度から約1,100万円減りました

企業会計

141億6,900万円

前年度から約2億7,300万円減りました

3月定例会で総額約859億円からなる令和5年度予算が提案され、慎重なる審議の結果、原案のとおり可決しました。

令和5年度の津山市のお金の使い方について議論した議会の様子を一部お伝えします。
(予算の詳細は広報津山5月号や市ホームページに公開されておりますので、あわせてご覧ください)



広報津山5月号



当初予算の概要

スマートフォン等で読み取ると
関連するページにつながります

用語の説明

一般会計 福祉や教育、道路整備や産業の振興など、基本的な事業を行う会計

特別会計 介護保険事業や国民健康保険事業など特定の事業を行うため、特定の収入をその支出に充てるよう経理が独立している会計

企業会計 水道事業、下水道事業などの公営企業における会計で一般会計から切り離された会計

財産区会計 所有する山林などの管理及び処分等を目的とした、地方公共団体の特別な会計